

解剖訓蒙 韋帶論



Y994-J10255
1200901349495

509

古本



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak





Y994

J10255



I種
W



1200901349495

明治五年壬申年發閱

解剖訓蒙

大坂醫學學校官板

解剖訓蒙卷之四

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 文部省出仕安藤正胤譯

關節韌帶論

下脣ト顛顛ノ關節ハ、下脣髁、顛顛淺窩、及ヒ結節

トニシテ、其面悉ク軟骨ニテ被覆ス其運動ノ模

式ハ、第一口ノ開閉ニ於テハ、脣髁自ラ樞軸ト爲

テ、淺窩中ニ輾轉スルナリ、恰モ門戸ノ運樞ノ如

シ、第二前後二方ノ送轉ニ於テハ、脣髁進テ淺窩

ニ、

解剖訓蒙

卷之四

大坂醫學學校

ヨリ結節上ニ到リ復退テ淺窩ニ歸ルナリ第三
 左右二方ノ運轉ニ於テハ、髁窩其左右互ニ交代
 シ、斜ニ淺窩ヨリ結節上ニ到リ復退テ淺窩中
 ニ歸ルナリ蓋シ其門樞運動ハ、即チ上下ノ運動
 ニシテ、齒齧ノ作用ヲ為シ、其他前後及ヒ左右ノ
 運動ハ、咀嚼ノ作用ヲ為セリ、

此關節間ニ於テ、扁圓ナル軟骨板アリ、關節間軟
 骨^{アインブタロア、カテツモラ、ト}稱ス、其位置地平ニテ、
 關節面ヲ分隔シ、以テ兩室ト為ス、而シテ兩室ノ裡
 面ハ、各關節膜ニテ装貼セリ、

カテラ、ゴ、インタ
 ー、テモ、ラーリス、



全
 りガメント、ム、マキセ
 エラテラル、エキステ
 ヌム
 メン、プラナ、アー、テモ
 ラーリス、リガメント

軟骨板ハ、其縁厚シテ、囊鞅帶ニ附着ス、之レヲ前
 後ニ截断スレハ、截縁S字形ヲ呈ス、此骨板ニ由
 テ、下脛自在ニ運動スルヲ得、且ツ常ニ髁髁ニ伴
 ヒテ、淺窩ヲ微衝スルノカ勢ヲ減殺ス、
 囊鞅帶^{リカプ、メ、ラ、ト、ハ、}關節ヲ被色スル者ニシテ、
 其組織薄ク、且ツ緻密ナラス、上方ハ、淺窩及ヒ結
 節ノ周圍ニ附着シ、下方ハ、下脛ノ頸部ニ附着ス
 外側鞅帶^{エキス、テ、ラ、ル、リ、ガ、メ、ン、ト、ラ、ハ、}強キ短帶ニシテ、
 關節ノ外側ニ位シ、前帯ヲ扶助スル者ニシテ、上
 方ハ、衝突起ノ基礎ニ附着シ、下方ハ、下後方ニ展

大反醫學校

甲	リガメンタ、インタダ ルテブラリア
乙	ラインダ、ヴァル テブラ
丙	ファイプロ、カーテラ ジ
丁	トリス、インダ ダ、ヴァル テ ブラ、レス

延シテ、亦タ下脛ノ頸部ニ附着ス、
 脊椎柱關節セ、ヴァルテモ
 脊椎柱總部ノ諸片ヲ維持シ、且ツ椎柱ヲシテ、頭
 顱ト結締セシマルノ靱帶ヲ、大別シテ十二個ト
 ス、曰ク椎間靱帶、七個ト黄靱帶、二個ト前椎靱帶、後椎
 靱帶、囊靱帶、五對ト棘上靱帶、棘間靱帶、項窩靱帶、前
 後枕骨、アタラス靱帶、前後アタラス、アキシス靱
 帶、横靱帶、齒狀靱帶、三個ト是ナリ、以下之ヲ各別ニ辨
 説ス、

椎間靱帶、ラインダ、ヴァルテブラ、リガメンタ、

甲	リガメンタ、インタダ ルテブラリア
乙	ラインダ、ヴァル テブラ
丙	ファイプロ、カーテラ ジ
丁	トリス、インダ ダ、ヴァル テ ブラ、レス

椎間靱帶、ラインダ、ヴァルテブラ、リガメンタ、

シテ、其質強靱ナレド、又タ撓屈性ヲ有シ、頸椎ノ
 第一片、及ヒ第二片ノ他ハ、悉ク椎体ノ隣接間ニ
 挿入ス、而シテ椎柱ノ部位ニ由テ、其厚薄等シカラ
 ス、即チ腰部ニ在テハ、最モ厚ク、背部及ヒ尾骶ニ
 在テハ、甚タ薄シ、又タ一圓盤中ニ於テモ、厚薄ヲ
 異ニス、即チ頸及ヒ腰部ニ在テハ、其盤前方ニテ
 最モ厚ク、背部ニ在テハ、前方ヨリモ後方稍ヤ厚
 シ、
 圓盤ノ前後ニ由テ厚薄アルト、椎体モ亦前後ニ

由テ、多少厚薄アルトヲ以テ、椎柱ノ形状、乃チ屈曲セリ、蓋シ薦骨ノ屈曲スルハ、其固有ノ形状ニ由ル者トス、
 圓盤ノ造構ハ、其中心ニ毬布状ノ纖維軟骨ヲ有シ、周圍ハ、短小ナル數箇ノ纖維層、重疊セリ、而シテ、其每層ニ於テ、第一層ノ纖維右行スレハ、第二層ノ纖維左行シテ、互ニ相交錯シ、且ツ其位置ニ於テ、外層ハ外方ニ屈曲シ、内層ハ内方ニ屈曲シテ、亦タ互ニ鉛直ナラス、此纖維ハ、椎体ノ隣接間ニ斜行シ、即チ其体ヲ維持ス、

椎間靱帶ヲ截断スレハ、截口ニ於テ、毬布状ノ物、忽チ膨出セリ、因テ識ル、毬布状軟骨ハ、彼ノ纖維層ノ中央ニ充填シテ、常ニ其壓窄ヲ蒙ルナルヘシ、此靱帶ハ、脊椎柱ヲ維持シ、兼テ之ニ撓屈性ヲ賦與スルヲ以テ、椎柱ノ運動、其定度アルモ、機ニ臨テ恣ニナルヲ得、且ツ周圍ノ纖維層ハ、交错シテ、其外層、椎体ニ固着スルヲ以テ、椎柱、繆轉スルヲ得ルナリ、蓋シ此靱帶ニ、彈力性ヲ有スルハ、其中心ニ在ル、毬布状軟骨、常ニ壓窄セラレ、由ルトス、是故ニ、吾人直立スレハ、身体ノ重

カ、脊椎柱ヲ壓抑シテ、圓盤ノ纖維層愈々委屈スルヲ以テ、軀幹乃チ減短シ、匍匐スレハ、其理相反スルヲ以テ、軀幹乃チ添長ス、且又暮夜ニ至リ、將ニ眠ラントスルキハ、軀幹自ラ減短シ、而シテ晨旦ニ至リ、將ニ起ントスルキハ、其理亦々相反スルカ為ニ、軀幹自ラ添長スルモ、皆チ此纖維層ノ緩急ニ隨フ者ナレハ、其一長一短スル所以ヤ、當ニ了解シ得ルヘシ、

椎間鞏帶ニ由テ、椎柱諸片ノ聯合スルヲ看ルニ、其運動ノ度ハ、甚限制サル、然レモ之ヲ察スル

ニ、恰モ自在運轉ヲ為セル杵臼關節ニ類似セリ、何トナレハ、每椎間ノ圓盤ノ中心ニ在ル纖維軟骨ハ、乃チ頭球ノ作用ヲ為シ、其周圍ニ在ル纖維層ハ、乃チ止駐鞏帶ノ作用ヲ為ス、且ツ脊椎柱ノ裝置ヲ熟視スルニ、各方ニ運轉シ、兼テ其内部ニ含有スル所ノ至弱ニシテ至要ナル脊髓ヲ保全スル者ナレハ、其奇工ノ貴キヲ決シテ輕卒ニ看過スルナカレ、

黄靱帶

ガ

メ、ロ、ン、ト、リ、ハ、二十三對ニシテ、脊椎柱諸弓

ノ間ニ位シ、即チ頸椎ノ第二片ヨリ起テ、薦骨ニ

甲
リガメンタ、フラー
リガメンタ、ソフラー

全
リガメンタインタク
ムラリア

到ル其着點ハ上弓下部ノ前面及ヒ下弓上部ノ後面ニ於テ棘状突起ト横突起ノ兩間ニ在リ其造構ハ黄色ノ彈力組織ニシテ其纖維ハ椎弓ノ間隙ニ密布ス

甲
リガメンタムコンギ
テデナレアンテ
リヲス

前椎靱帶
アンテリガメンタム
テハ強固ナル繫帶ニシ

リガメンタムコ
リボスヴェルテ
イロムコンミ
子アンテリヲス

テ上方ハ枕骨基礎突起ヨリ起リ下方ハ尾骶骨ノ末端ニ到ル即チ脊椎柱ノ全徑ニ亘ルナリ其上端ノ圓キ部ヲ以テ尋常一個ノ靱帶ト做シテ別ニ前中枕骨アタラス靱帶ヲアンテリガメンタムコリボスヴェルテイロムコンミ子アンテリガト稱ス下行スルニ從テ漸次ニ擴張シ

其椎体ニ對向スル所ニ於テハ最モ厚且ツ著明ニシテ薦骨上ニ於テハ最モ薄シ而シテ推間靱帶部ト椎体隣接部トニ於テ最モ緊密ニ固着ス

造構ハ束縛セル緻密ナル纖維ニシテ其表層ハ脊椎柱中ノ三四片ノ全徑ニ亘リ次層ハ二三片ノ全徑ニ亘リ深層ハ唯ニ片隣接ノ間ニ亘ル

此靱帶ノ作用ハ脊椎柱ノ各片ヲ結締シ且ツ横膈脚ノ起端ト為リ且ツ咽頭胃管胸管大動脈不

對靜脈及ヒ下行大靜脈ニ附着シテ之ヲ維持ス

後椎靱帶
ポステリガメンタム
トハ強固ナル纖維帶

甲
リガメンタム
ギテナレアンテ
リヲス

後椎靱帶
ポステリガメンタム
トハ強固ナル纖維帶

全
リガメントム、アポ
リボス、左ルテ、フライ
ロム、ボステリラス

解剖学
脊髄
ニシテ、其側縁、弓状ニ彎曲シ、乃チ髓管中ニ占位
ス上方ハ、枕骨ノ基礎突起ヨリ起リ、下方ハ尾骶
骨ノ末端ニ達ス其經過中、椎間靱帯ニ對スル所
ハ、横徑ニ擴張シテ、椎体ノ隣接縁ト、椎間靱帯ト
ニ固着シ、而シテ椎体ノ中部ニ於テハ、狭窄セリ、而
テ此帶ト、椎体トノ中間ハ、脊椎竇ノ横静脈ニテ
分界セリ、
椎骨關節突起ハ、軟骨ヲ以テ被包シ、而シテ關節ゴ
トニ、關節膜ト、薄キ囊靱帯トヲ有セリ此關節ハ、
運動ハ定度僅少ニシテ、唯タ脊椎柱、屈曲スルキ

甲
リガメントム、アポ
ム

ニ、稍ヤ滑動スルノモナリ、
棘上靱帯
ス、シリガメスパイトイヌハ、棘状突起ノ頂上ヲ
結締スル、細キ纖維帶ニシテ、上方ハ、頸椎ノ末片
ヨリ起リ、下方ハ、尾骶骨ノ末端ニ達シ、殊ニ腰部
ニ於テ、寂モ強固ナリ其先端ハ、項窩靱帯ニ連續
シ、下端ハ、擴張シテ髓管ヲ閉鎖ス、

乙
リガメントム、アポ
ピナリケ
全
メムブラナ、イン
スピナ

棘間靱帯
ス、インダ、スパイトイヌハ、其隣片ノ棘状突起
ヲ結締スル、薄キ纖維膜ニシテ、即チ前帶ヨリ展
延セシ者ナリ、
項窩靱帯
ガ、メ、ン、カ、ル、リハ、疎鬆ナル纖維組織ニシ

丙
リガメントム、アポ
全
ス、シリガメ、カ、リ、ス

項窩靱帯
ガ、メ、ン、カ、ル、リハ、疎鬆ナル纖維組織ニシ

全 甲
メンブラナ、アンノ
リ、アンテリオリス、
トポステリオリス、
トランサス、
メンブラナ、オブ、
トリア、アンテリオリス、

テ、頸部ノ両側ノ筋間ニ於ケル中隔ナリ、而シテ頸
椎末片ノ棘状突起ヨリ起リ、上行シテ、枕骨鶏冠
ニ沿テ、其結節ニ達ス、
此靱帯ノ發育、人ニ在テハ、極メテ微小ニシテ、獸
類ニ比スレハ、畢竟萌芽ヲ發スルノミ、蓋シ四足
獸ニ在テハ、殊ニ強固ニシテ、且ツ彈力ヲ有ス、故
ニ能ク、其首領ヲ維持スルヲ得タリ、
枕骨、アタラス、及ヒ「アキシス」關節レアルニ
前後枕骨「アタラス」靱帯「アキシス」關節
シピンテリヲ、エ、イ、ド、リ

トポステリオリス

甲
メンブラナ、アンノ
リ、アンテリオリス、
トポステリオリス、
トランサス、
メンブラナ、オブ、
トリア、アンテリオリス、

ノガツメハ、廣且ツ薄キ纖維膜ニシテ、枕骨孔ト「アタ
ラス」ノ隣接縁ニ涉リ、枕骨髁ト「アタラス」ノ關節
突起トノ前後ニ占居ス、
前後「アタラス」アキシス靱帯「アキシス」
ガキ「アキシス」モ、亦タ薄キ纖維膜ニシテ、其前部ノ
者ハ、「アタラス」ノ横梁ト「アキシス」ノ体ノ前面ヲ
結締シ、後部ノ者ハ、「アタラス」ト「アキシス」ノ隣接
縁ヲ結締ス、
以上四箇ノ靱帯ハ、皆ナ疎鬆ニシテ、柔撓ナルヲ
以テ、頭顱ト「アタラス」トノ固有運動ヲ妨ルルヲ無

甲
リガメント、ア、タラ
ンス、ヴァル、ス、ム、ア、ト
ラン、チ、ス

全
リガメント、ム、タラ
ンス、ヴァル、サ、レ

枕骨ト、ア、タラス、及ヒ、ア、キシス、ハ、關節突起ト
ニ、於ケル、囊鞅帶モ、亦、疎鬆ニシテ、柔緩ナルヲ
以テ、頭顱ノ、廻轉、及ヒ、屈伸ノ、運動ニ、的當セリ、
横鞅帶甲ス、リガメント、ム、ハ、強固ナル鞅帶ニシテ、ア
タラス、ノ、内側ニ、於ケル、而、結節ノ、間ニ、涉リ、以テ
齒狀突起ヲシテ、其位置ニ、固定シ、且ツ、脱去セサ
ラシム、此、切用ヲ、愈々、強固ナラシムル為メ、ニ、其
中央ヨリ、又、タ、一、帶ヲ、生シテ、上下ニ、進行シ、其上
方ノ、者ハ、枕骨孔ノ、前縁ニ、附着シ、下方ノ、者ハ、齒
狀突起ノ、基根ニ、附着ス、蓋シ、横鞅帶ト、相交叉シ

甲
リガメント、ア、ラ、リ、ク
メ、デ、ヲ、ム

全
リガメント、デ、ン、テ、ス、
ソ、ス、ペ、ン、ソ、リ、ヲ、ム

テ、即チ、十字形ヲ、畫スルナリ、
齒狀鞅帶甲リガメント、ツ、イ、ド、ハ、其、數、三、箇ニシテ、齒狀
突起ノ、各側、及ヒ、其、尖頂ヨリ、上行シテ、共ニ、枕骨
孔ノ、前縁ニ、固着ス、而シテ、其、側帯ハ、中帯ヨリ、モ、強
剛ナリ、此、鞅帶ノ、作用ハ、頭顱ノ、廻轉運動ヲ、限制
ス、
齒狀突起ト、ア、タラス、トノ、聯接面ハ、軟骨ニテ、被
覆シ、且ツ、關節膜ニテ、裝裏シ、而シテ、囊鞅帶ニテ、圍
擁セル、一個ノ、關節ヲ、造為ス、此、關節ト、同式ナル
者アリ、即チ、齒狀突起ト、横鞅帶ノ、間ニ、存在セリ

既ニ骨論中ニ辨スル如ク、頭顱ノ俯仰運動ハ、枕骨ノ髁ト、アタラスノ關節突起ト、固有造構ニ由ル者トス、蓋シ此運動ヲ限制スル者ハ、囊鞞帶、枕骨「アタラス」鞞帶、及ヒ項窩鞞帶ナリ而シテ、其廻轉運動ハ、「アタラス」ト、「アキシ」トノ間ニ現在ス、乃チ齒狀突起ハ、其中軸ヲ為シ、關節突起ハ、其廻境ヲ為ス、然リ而シテ此運動ヲ限制スル者ハ、囊鞞帶、「アタラス」アキシス鞞帶、及ヒ齒狀鞞帶ナリ蓋シ脊椎柱中、頸部ハ、都テ柔撓ナルヲ以テ、以上ノ運動ヲ稍ヤ増大ニセリ、

椎肋及ヒ胸肋關節 アキシ、リ、ブ、ス、ウ、セ、ウ、ル

椎肋關節 アコ、ス、ト、モ、ル、テ、シ、ラ、ル、ハ、肋、頭、ト、椎、体、ト

ノ關節ニシテ、其周縁ニ囊鞞帶アリテ、之ヲ圍擁ス、而シテ第一肋ト、終末ノ二肋ト、他ハ、關節間鞞帶

蓋シ此鞞帶ハ、短帶ニシテ、肋頭線ト、椎間鞞帶ト

ヲ結締スル者ナリ、關節ノ前面ニ於テハ、放線鞞帶

繫帶ニシテ、肋頭ヨリ起リ、椎体ノ隣接部、及ヒ椎

甲
リガメント、アム、イン、タ
ア、イ、テ、モ、ラ、レ

全
リガメント、アム、タ、ラン
ス、ウ、ル、ス、ウ、ル

乙
リガメント、アム、コ、ス、テ
ア、ン、テ、リ、ヲ、ス

全
リガメント、アム、ラ、テ、ア
イ、ト、ム

全	全	丙	全	乙	全	甲
リガメントム、コステ ラ、コステ	リガメントム、コステ ラ、コステ	リガメントム、コステ ラ、コステ	リガメントム、コステ ラ、コステ	リガメントム、コステ ラ、コステ	リガメントム、コステ ラ、コステ	リガメントム、コステ ラ、コステ

間靱帯ニ到ル上十肋ノ結節ト、頭椎ノ横突起ノ
 間ニ於ケル、關節モ稍ヤ運動ス、而シテ亦々囊
 靱帯ニテ圍擁セリ、其他、每肋ニ於テ、三箇ノ靱帯
 有シ、以テ横突起ト繋合ス、即チ其一箇、前肋横
 靱帯、アンテリウス、リガメントラハ、膜様ノ繋帯ニシ
 テ、肋頭ト上横突起ヲ結締シ、其一箇、後肋横靱帯
ポステリウス、リガメントラハ、短帯ニシテ、肋骨ノ結
 節ト隣接スル横突起ノ末端トヲ結締シ、其一箇
 中肋横靱帯 ミドル、コステラ、ハ、短キ纖維ニ
 シテ、肋頭ト隣接スル横突起ノ中間ニ存在ス、

甲
リガメントム、ガイ
ライラム

胸肋關節 コステト、ス、ハ、第一肋、他、總シ
 肋軟骨ハ、胸骨ノ外側ニ關節シ、其周圍ニ囊靱帯
 アリテ、衛固シ、内部ハ、關節膜ニテ装貼ス、此關節
 ノ前後ニ於テ、肋軟骨ヨリ、胸骨上ニ放線スル纖
 維アリ、前後胸肋靱帯 アンテリウス、リガメント
 ント称ス、亦々爰ニ衛固ス、此靱帯ハ、前方最モ著
 シク、左右相會合シテ、胸筋ノ腱膜ニ連続ス、第七
 肋軟骨ト胸骨ノ第三片ヲ結締スル、薄キ纖維帶
 アリ、肋肋劍靱帯 ド、コステラ、ノ、サ、イ、ト、称ス、第六ヨリ
 第九肋軟骨マテノ隣接線、若シ互ニ結合セザル

甲
リガメントム、イリシ
ロンバーレ

乙
リガメントム、イリシ
イシアテユム、マダス

前方ノ者ハ短帯ニシテ、縫合ハ前面ニ位シ、以テ
 二骨ヲ繫結シ、後方ノ者ハ強剛ニシテ、縫合ノ後
 面ニ位シ、即チ腸骨ノ後棘状突起、及ヒ其近傍、
 粗糙面ヨリ起リ、斜メニ横行シテ、薦骨ニ聯合面
 ニ至ル、
 腰腸鞞帶 リガメヲ、ノト、バ、ハ、纖維繫帶ニシテ、腰椎
 終片ノ横突起ノ末端ヨリ起リ、外方ニ擴張シテ、
 腸骨脊ノ後部ニ附着ス、
 大薦坐鞞帶 アグリク、リト、サ、ク、メ、シ、ト、シ、ハ、三角形ノ強鞞
 帶ニシテ、其基礎ハ腸骨ノ後下棘状突起ト、薦骨

甲
リガメントム、イリシ
ス

ト、尾骶骨下縁トニ附着シ、尖端ハ狭小ニ展延シ
 テ、坐骨結節ノ内縁ニ固着ス、
 小薦坐鞞帶 アスモ、ク、リ、ガ、メ、ク、ノ、ト、シ、ハ、前帯ニ比ス、
 ハ、弱劣ニシテ、之ト共ニ、薦骨ト、尾骶骨トノ両縁
 ヨリ起リ、其纖維、漸次ニ輻湊シ、以テ坐骨棘ニ附
 着ス、

以上ノ大小鞞帶ニ由テ、坐骨截間ハ、乃チ大小ノ
 坐骨孔ト為ル、而シテ大孔ハ、楕圓ニシテ、梨子状筋、
 坐骨神經、臀陰具、坐骨血管、及ヒ神經ヲ通シ、小孔
 ハ、三角形ニシテ、鎖孔筋、内陰具血管、及ヒ神經ヲ

通ス、リ、メ、エ、キ、ス、テ 上肢關節及ヒ運動ア、レ、イ、ウ、テ、キ、ム、レ、ト、ラ、ヴ、セ、ク、

胸鎖關節ア、ス、テ、ル、ノ、ク、ラ、ヴ、キ、ヨ、ン、ラ、ハ、 胸骨ノ上角ト、

鎖骨ノ内端ヨリ成リ、其周圍ハ、囊韌帶ニテ抱擁

ス、而メ此韌帶ノ強部ハ、前後胸鎖韌帶ア、ン、テ、リ、

關節間纖維軟骨ア、イ、ン、ダ、ア、カ、テ、レ、キ、ダ、ニ、由、テ、乃、チ

二面ニ分ル、一面ハ、第一肋軟骨ニ連接シ、一面ハ、

鎖骨上縁ニ連接ス、而メ其周縁ハ、囊韌帶ニ附着

ス、爰ニ又々二個ノ副韌帶アリ、其一ハ狹帶ニシ

テ、ア、イ、ン、ダ、ア、カ、テ、レ、キ、ダ、ニ、由、テ、乃、チ 鎖骨間韌帶ア、イ、ン、ダ、ア、カ、テ、レ、キ、ダ、ニ、由、テ、乃、チ

横居シ、以テ兩鎖骨ヲ維持ス、一ハ強帶ニシテ、ア、イ、ン、ダ、ア、カ、テ、レ、キ、ダ、ニ、由、テ、乃、チ 肋

鎖韌帶ア、イ、ン、ダ、ア、カ、テ、レ、キ、ダ、ニ、由、テ、乃、チ 稱ス、第一肋軟骨ヲシ

テ、鎖骨ノ下部ニ結締セシム、ア、イ、ン、ダ、ア、カ、テ、レ、キ、ダ、ニ、由、テ、乃、チ

軀幹ト上肢トヲ繫約スル者ハ、持リ此胸鎖關節

ノミニシテ、其韌帶尤モ剛直ナリ、然レモ敢テ妨

碍セラハ、一ナク、能ク各方ニ運轉シ、大ニ自由

ヲ得タリ、蓋シ此運動ニ於テ、全肢ハ、之ニ關與ス

レモ、胸骨ハ、依然トシテ、只其動成ニ任了スルノ

全
リ、ガ、メン、ト、ム、ロ、ン、ゴ
イ、デ、ス

乙
リ、ガ、メン、ト、ム、コ、ス、ト
ク、ラ、ヴ、キ、ラ、ト、レ

甲
リ、ガ、メン、ト、ム、イ、ン、ダ
ク、ラ、ヴ、キ、ラ、ト、レ

肩鎖關節 アスカロテモク 此關節ノ運動ハ、肩頭ト鎖骨ト

ヨリ成リ、亦々囊韌帶ヲ以テ之ヲ圍擁ス、而メ此

韌帶ノ強部ハ、上下ノ肩頭鎖骨韌帶 シペリヲ、エ

テ、アノクロミラ、クツラヲ成セリ、此關節ノ運動ハ、甚

僅微ナルニ、且尚ホ鳥啄鎖骨韌帶 ヒコラ、リコクメ

トヲ以テ、其運轉ノ度ヲ限制ス、此韌帶ハ、二箇ノ

強キ纖維帶ニシテ、鳥啄突起ノ基礎ト、鎖骨ノ下

面トノ中間ニ達ス、

肩骨運動ノ中心ハ、即チ胸鎖關節ニシテ、鎖骨及

甲
リガメントムコラコ
クラウモラトレ
全
リガメントムコノイ
デス、エド、トラペゾイ
デス
全
リガメントム、スカロ
レ、コム、子、コノイ
デス、エド、トラペゾイ
デス

ヒ肩胛骨ハ、其中心ヲ以テ軸ト為シ、上下及ヒ前
後方ニ運動ス、而メ肩胛骨ハ、鎖骨上ニ於テ、上下、
及ヒ前外方ニ滑轉シ、或ハ自軸ニ由テ、亦々能ク
廻轉ス、乃チ肩胛ヲ舉上スルキニ於ルカ如シ、

肩胛關節 ルゼ、シラ、イン、ト

肩胛關節 アスカロテモク 即チ肩胛上臂關節

ハ、其周圍ニ薄キ粗鬆ナル囊韌帶 カプ、シ、ラ、リ

以テ抱擁ス、而メ此韌帶ノ上部ハ、淺窩縁ニ附着

シ、下部ハ、上臂頭ニ附着ス、關節ノ上部ハ、鳥啄突

起ト、上臂大結節トノ中間ニ、填布スル廣帯、即チ

甲
リガメントム、カプ、シ
ラ、レ、マ、ダ、ム

乙
リガメント、アム、アス、
テ、ラム

甲
リガメント、ヒム、グレ
ノ、イ、デ、ス

鳥啄上臂韌帶、ハ、コ、ラ、コ、ヒ、ム、マ、ラ、フ、イ、テ、之、ヲ、衛、固、ス、
 此關節ハ、身体中ニ於テ、最モ運動スヘキ關節ニ
 シテ、各方運轉ノ距離、亦タ廣大ナリ、故ニ種々ノ
 装置ヲ具有シテ、之ヲ護衛スレ、屢脱去シ易シ
 蓋シ上臂頭ノ面ハ、其運轉スル、淺窩面ノ廣度ニ、
 三倍スルヲ以テ、尚ホ其窩ヲ深カラシメンカ為
 メニ、周圍ニ於テ、三稜形ノ纖維軟骨韌帶ヲ附着
 ス、之ヲ淺窩韌帶リグリメントト稱ス、而シテ其上方
 ニ於テ、二頭筋ノ長頭腱、其起端ヲ取レリ、此腱ハ、
 關節部ヲ通過シテ、上臂ノ二頭筋溝ニ達シ、兼テ

甲
リガメント、ム、コ、ラ、コ
ア、ク、ロ、ミ、ア、ー、レ
 乙
リガメント、ム、ト、リ、ア
ン、ギ、ユ、ラ、ー、レ
 全
リガメント、ム、ス、カ、ピ、
レ、プ、ロ、プ、リ、ム、ア、ン
テ、リ、ム、ス

關節ニ於テハ、韌帶ノ作用ヲ為ス、蓋シ其關節ヲ
 通過スルニ於テ、關節膜反展シテ、之ヲ被包シ、以
 テ淺窩ト分隔セリ、

爰ニ又タ三角形ノ強キ纖維帶アリ、鳥啄肩頭韌
 帶コラコヒムマラフ、リガメントト稱ス、其尖端ハ、肩頭ニ附着
 シ、基礎ハ、鳥啄突起ニ附着ス、斯ノ如ク、肩頭ト、鳥

啄突起ノ間ニ占位シテ、關節ノ上方ヲ被覆シ、乃
 チ廣キ穹隆状ヲ成ス、故ニ此韌帶破レサレハ、上

臂骨ノ脱去、決テ此方向ニ於テセシ三角筋モ、亦
 タ大ニ此關節ノ上部ノ強固ヲ補助シ、肩胛下筋、

棘上筋、棘下筋、及ヒ小圓筋ノ腱ハ關節ノ前後ヲ固密ニ圍擁シ、而シテ上臂結節ニ到テ附着シ、關節ノ下部ニハ三頭伸筋、腱ノ長頭ヲ附着ス。若シ是等ノ諸筋ヲ悉ク截斷スレハ、此部ノ囊韌帶固ヨリ弛緩ナルヲ以テ、上臂頭下垂シテ、常位ヲ脱離スルヲ殆ト一インチ許ニ及フ可シ。此關節ノ運動ハ前後上下、繆轉及ヒ廻轉ノ作用ヲ主宰セリ。

肱關節 ヒ、エルボト

肱關節ハ上臂下臂ノ兩骨ヨリ成リ、其裏面ハ關節膜ニテ裝貼シ、周圍ハ囊韌帶ニテ被覆シ、且ツ

甲
メンブラ大カ、プシ
ラ、名ビ、ローデ

全
リガメントム、ラテ
ライレ、インテ、ノム
全
リガメントム、ブラキ
ク、ビ、ターレ
全
リガメントム、ラテ
ア、ト、アム
全
リガメントム、トリ
アン、ギ、ラ、レ

乙
リガメントム、ラテ
ラ、レ、キ、ス、テ、ノム

内外ノ兩側ニ於テ別ニ韌帶アリテ、之ヲ衛固ス。囊韌帶 カ、メ、プ、シ、ト、ラ、 薄ク粗鬆ニシテ、其上方ハ

上臂骨ノ關節面ノ上ニ附着シ、以テ肱突起ト鳥啄突起ヲ受容セル凹窩トヲ圍擁ス、下方ハ尺骨ノ半月窩縁ト環狀韌帶トニ附着ス。其造構前方ニ比スレハ、後方甚々弱劣ナリ、

内側韌帶 ラ、イ、ン、テ、ラ、 強帯ニシテ、肱突起ト鳥啄突起ノ間ニ放線ス、即チ上臂骨ノ内髁ヨ

リ、尺骨ノ大半月窩ノ内縁ニ到ル、

外側韌帶 エ、キ、ス、テ、ラ、 狹帯ニシテ、上臂

全
リガメントム、ブラキ
ヌラデアール

甲
リガメントム、アヌ
ラール

骨ノ外髁ト環状靱帯ノ間ニ普達ス、
 下臂骨ノ運動ハ唯々上臂骨ニ對向シテ屈伸ス
 ルノミ、蓋シ其運動ニ於テ尺骨ハ特ニ屈伸スル
 入ニナレバ、撓骨ハ屈伸ニ兼テ尺骨ト上臂骨ト
 ニ向テ廻轉セリ、
 上撓尺關節ト、
 上撓尺關節ハ、
 尺骨ノ小半月窩ヨリ成リ、其關節膜、及ヒ囊靱帯
 ハ、即チ肱關節ト相共ニス、撓骨頭ハ、強キ纖維帶
 自チ被包ス、之ヲ環状靱帯ガメントト稱ス、此靱

全
リガメントム、アルビ
モラール

甲
リガメントム、インタ
メンブラナ、インタ
セア

乙
リガメントム、デーレス
ルガメントム、ラブリ
ム

帶ノ末端ハ、尺骨ノ半月窩ハ前、及ヒ後方ニ附着
 ス、
 中撓尺關節ハ、撓骨ト尺骨トノ間隙ニシテ、其全
 徑、五分ノ四、下方ハ、至薄且ツ強固ナル、骨間膜
 斜メニ下行シテ、尺骨ノ對緣ニ附着ス、此膜ハ、撓
 尺二骨ヲ結締シ、其他、下臂深筋ノ起因ト為リ、且
 ツ血管アリテ穿通セリ、間隙ノ上部ニ於テ、斜ナ
 ル一個ノ帶アリ、圓靱帯ガメントト稱ス、尺骨

全
コルダ、タラン、ス、ウセル
サーリス

解剖学 卷之四 邦医学校

ノ鳥喙突起ヨリ下行シ、橈骨結節ノ下部ニ達ス、
下撓尺關節セ、イン、五、リ、ヲ、レ、レ、シ、ダ、ン、ヲ、ハ、關節間ニ、三角形ノ纖維軟骨ヲ挿
ミ、以テ腕關節ト、分隔ス、蓋シ此軟骨ノ基礎ハ、撓
骨ノ半月窩ノ下縁ニ附着シ、尖端ハ、尺骨ノ頭ト、
錐頭突起トノ間ニ於ケル、凹窩ニ附着ス、關節ノ
周圍ハ、粗鬆ナル、囊韌帶ニテ被包ス、此韌帶ハ、撓
尺二骨、及ヒ纖維軟骨ノ關節縁ニ結合ス、
撓骨ノ運動ハ、尺骨ノ上ニ内轉ス、其模式、即チ前
方ニ於テ、尺骨ニ乗シテ交叉シ、斜ニ十字形ヲ呈

全
コルダ、タラン、ス、ウセル
サーリス

ス、蓋シ手腕ノ位置ハ、撓骨ノ運轉ニ従フモノニ
シテ、下垂スルルル、其掌、後方ニ向ケリ、之ヲ内轉
運動ト云フ、之ニ反シテ、撓骨已レノ位置ニ復シ、
即チ尺骨ノ外側ニ平行スルルル、其掌、前方ニ向
ケリ、之ヲ外轉運動ト云フ、蓋シ撓骨ノ運轉ハ、其
頭、環狀韌帶ノ内ニ於テ、上臂骨、及ヒ尺骨ノ小半
月窩ニ廻轉シ、其下端、尺骨ノ頭上ニ旋回ス、

腕關節 即チ撓尺關節ニテ、腕關節ノ中心ニシテ、
即チ撓尺關節ノ中心ニシテ、腕關節ノ中心ニシテ、

腕關節ハ上方ハ、撓骨、及ヒ三角形ノ纖維軟骨ヨ
リ成リ、而シテ此軟骨ハ、撓尺二骨ヲ維持ス、下方ハ、

解剖学 卷之四 邦医学校 十九

全	乙	全	全	甲
リガメントラム、ラテラ ーレ、ラデアーレ	リガメントラム、ラテラ ーレ、エキステルノム	ラニクス、リガメ ントーゾス	リガメントラム、ラル ナーレ	リガメントラム、ラテラ ーレ、インテルノム

船槓骨、半月槓骨、及ヒ楔狀骨ヨリ成ル、其周圍ハ、
緩祐ニシテ粗鬆ナル、囊韌帶ヲ以テ被覆ス、此韌
帶ハ、關節面ノ隣縁ニ附着ス、又タ別ニ二個ノ強
帶アリテ、之ヲ衛固ス、其内方ノ者ヲ〔内側韌帶〕ニ
テ、リガル、ラント称シ、楔狀骨ヲ、尺骨ノ錐穎突起
ニ繫合ス、外方ノ者ヲ〔外側韌帶〕ニテ、エキス、ラ
ト称シ、船槓骨ト撓骨ノ錐穎突起トノ間ニ達
ス、爰ニ又タ單ナル關節膜アリテ、唯タ撓腕關節
ノ裏面ノモヲ裝貼セリ、
此關節ノ運動ハ、即チ手腕ヲシテ、屈伸、内轉、外轉、

及ヒ旋廻セシム、而シテ其旋廻運動ハ、畢竟撓骨ノ
廻轉スルニ由ルナリ、

腕骨間、及ヒ腕掌骨關節セ、イン、カ、ル、ポ、メ、タ

豆骨ハ、楔狀骨ト一個ノ關節ヲ成シ、其裏面ハ、關
節膜ニテ裝貼シ、外圍ハ、強固ナル囊韌帶ニテ被

包セリ、腕骨ノ第一列中、船槓骨、半月槓骨、及ヒ楔
狀骨ハ、共ニ其上部ニ於テ、骨間韌帶イン、タ、ガ、メ

ヲ以テ維持ス、第二列中、小富稜骨、備頭骨、及ヒ
鈎狀骨ハ、共ニ其中央ニ於テ、亦タ骨間韌帶ヲ以

テ維持ス蓋シ内側四個ノ掌骨ノ基礎ニ於テ維持スル景況モ亦然リ腕骨ト拇指ヲ除ク他、
 豆骨ヲ除ク他、總テノ腕骨ト拇指ヲ除ク他、
 總テノ掌骨ノ基礎トハ、短キ纖維帶ヲ以テ相互ニ維持ス、手掌及ヒ手背韌帶サバルマ、エ、ド、ル是
 二前、此兩帶、内外ヨリ相對向シテ、自ラ囊韌帶ニ
 代リ、以テ腕骨ト掌骨ノ基礎トヲ各被覆セリ、關
 節ノ裏面ハ、一箇ノ關節膜ヲ以テ裝貼ス、蓋シ此
 等ノ關節ハ、運動スルヲ無シ、然レモ腕骨ノ第二
 列ノ間ニ於テハ、其關節所謂絞鈕運動ヲ為スナ

リ、

拇指ノ掌骨ハ、大富稜骨ト共ニ、運動關節ヲ成シ、
 囊韌帶ニテ被包ス、蓋シ此關節面ハ、拇指ノ凸部、
 富稜骨ノ凹部ニ入り、富稜骨ノ凸部、拇指ノ凹部
 ニ入テ、互ニ啣合シ、以テ聯接スルカ故ニ、前後内
 外ノ運動ヲ許容シ、乃チ拇指ヲシテ、自在ニ他ノ
 諸指ニ對向セシム、内側四個ノ掌骨頭ハ、各、其前
 方ニ於テ、稍ヤ疎鬆ナル、**横韌帶**タラガメ、ソ、トルヲ
 以テ維持セリ、

掌指骨及ヒ指骨間關節セ、メ、カ、ル、エ、ヤ、ソ、レ

ケル、ア、シ、ン、テ

掌指骨關節、及ヒ指骨間關節ハ、總テ強キ側韌帶ヲ以テ維持ス、此韌帶ハ、其部ノ上方ノ骨側ヨリ起リ、少シ斜メニ前方ニ下行シテ、同側ノ下方ノ骨側ニ達ス、蓋シ左右ノ兩側共ニ然リトス、此關節ノ前部ハ、厚キ纖維軟骨狀ナル、手掌韌帶ハ、ハ、リ、ン、ガ、メ、ヲ、以、テ、衛、固、ス、此韌帶ハ、側韌帶ノ中間ニ達シテ、關節ノ上、及ヒ下ノ骨緣ニ附着ス、蓋シ此着點、其上方ハ、下方ニ比スレハ、稍ヤ緩ナリ、而シテ此韌帶ヲ、手掌ヨリ見ルキハ、溝形ヲ呈ス、是レ屈筋

腱ノ通路ナリ、脚骨、頭、後、受、容、ス、ハ、四、高、ニ、シ、テ、其、關節ノ後部ハ、伸筋腱ニ展延ヲ以テ被覆ス、此展延部、即チ韌帶ニ代リテ作用セリ、掌骨ノ頭ト、指骨、第一列ノ基礎トノ關節ハ、屈伸、及ヒ内外ノ運動ヲ為ス、然レハ指骨間關節ハ、只々屈伸ノ運動ヲ為スノミ、

下肢ノ關節、及ヒ運動

下肢ノ關節ハ、上肢ノ關節ヨリモ、尚ホ強剛ナラシメテ要ス、蓋シ其造構ノ強固ニシテ、廣大ナルハ、只々運轉ノ自在ナルヲ專ニスルニ非ス、但々

軀体ヲ支柱スルヲ求ムルナリ、既ニ論スル如ク、
胫骨ハ、軀幹ノ一部タルニ、其下肢ニ關係スルナリ、
猶ホ肩胛骨ノ上肢ニ於ルカコトシ、然リ而シテ此
骨ニ在テハ、全ク運動セサルナリ、

膝關節 ヒップ、ジョイント

膝關節ハ、髌骨及テ大腿骨頭ヨリ成ル、是レ身体
中、最強キ關節ニシテ、其造構、所謂杵臼關節ナリ
蓋シ此關節ハ、各方ニ運轉スルナリ自在ナリ、
肩
胛關節ニ比スルニ、其度大ニ限制セラレ、ナリ
髌骨ハ、即チ大腿骨頭ヲ受容スル、凹窩ニシテ、其

甲 ラブロムカーテラジ
ラム

乙 リガメントム、テールス

深度ヲ増加スルニ、三稜玻璃形ナル、纖維軟骨ノ
環状靱帯ヲ以テス、之ヲ 蓋窩靱帯 リコラメノイトト

稱シ、即チ髌骨ノ周縁ニ附着シ、而シテ蓋窩截間ヲ
越ルキニ、一孔ヲ作り、以テ關節血管ヲ通ス、大腿

骨頭ヨリ圓形ノ強キ纖維帶ヲ出ス、圓靱帯 ラドウ
ノリガメント稱ス、内方ニ擴張シテ、蓋窩截間ノ縁ニ
附着ス、

此關節ノ囊靱帯ハ、亦々体中最強キ靱帯ニシテ、
其上端ハ、髌骨縁ノ周圍ニ附着シ、以テ蓋窩靱帯

ヲ被覆ス、下端ハ、大腿骨ノ前轉子間線ニ附着シ、

甲
イリヲ、左モラハリ
ガメント

而ノ後轉子間線ノ上方、即チ大腿骨頭ニ緩着セ
リ、關節ノ前部ニ拵テ、件ノ囊韌帶ヲ衛固スル、一個
ノ廣キ纖維帶アリ、副韌帶リアガクセソトリ、ト称ス、
此帶ハ、腸骨ノ前下棘状突起ト、前轉子間線トノ
中間ニ普達ス、爰ニ又々大ナル諸筋ニテ、囊韌帶
ヲ圍擁シ、以テ關節ヲシテ、愈強固ニ保護セリ、
此關節ノ内面ハ、關節膜ヲ以テ裝貼ス、此膜、大腿
骨ノ頭ヲ被包シ、且ツ圓韌帶ノ上ニ及展ス、囊韌
帶及ヒ諸筋ヲ截斷スルニ、大腿骨頭ヲシテ、脾曰

甲
イリヲ、左モラハリ
ガメント

ヨリ脱離セシムルニハ、尚ホ強カラ要セサル可
カラス、是レ全ク大氣ノ外壓ニ由テ、然ラシムル
ナリ、

膝關節 イセ、ニト シラ

膝關節ハ、身体中、最モ大ナル關節ニシテ、其造構、
極テ錯雜ナリ、此關節ハ、所謂鉸鈕運動ヲ主トシ、
而シテ僅ニ迴轉運動ヲ兼子リ、乃チ關節、屈スルキ
ハ、脛骨ヲシテ、腿骨ノ後面ニ層疊セシメ、伸フル
ハ、脛骨ヲシテ、腿骨ト直線ナラシム、蓋シ屈ス
ル寸ハ、脛骨、自軸ヲ為シテ、各側ノ運動ヲ許容ス

解剖明蒙 卷之四 大反醫學校

レ此伸フレハ然クスルヲ能ハス、
此關節ノ基礎ヲ為ス者ハ、大小腿骨ノ兩髌、兼テ
其中間ニ於ケル、纖維軟骨及ヒ膝蓋骨ニシテ、互
ニ相ト隣接セル骨面ハ、各軟骨ヲ以テ被色シ、周
圍ハ薄キ囊韌帶ニテ圍擁シ、裏面ハ潤大ナル關
節膜ニテ裝貼シ、且ツ強キ帶狀韌帶、及ヒ近傍ノ
諸筋ノ腱ニテ衛固ス、

甲
フイ、フロ、カーテラジ
レチ、ス、セミ、ム、ナ
レ、ス

小腿骨ノ髌上ニハ、兩個ノ半月狀纖維軟骨セニ
テ、レイ、ダ、ブ、ロ、カ、ヲ、戴、ク、其、式、ハ、半、月、狀、即、チ、C、字、形、ノ
骨板ニシテ、外縁ハ厚ク、内縁ハ薄ク、恰モ三稜玻

璃ノ如シ、其兩端ハ、小腿骨ノ棘狀突起ヲ前後ニ
附着ス、此兩板ノ設置ニ由テ、小腿骨上ハ、淺窩ナ
ル關節面ト為リ、以テ大腿骨ノ兩髌ヲ受容ス、此
板、其内側ニ在ル者ハ、周圍ノ囊韌帶、及ヒ側韌帶
ニ固着ス、外側ニ在ル者ハ、附着緩祐ナルカ故ニ、
大腿骨ノ運動ニ從テ、各方ニ滑轉ス、此板ハ、小腿
髌ヲシテ、大腿髌ニ聯合セシムルノ他、二髌ノ摩
擦ヲ防キ、且ツ彈力性ノ隔枕ト為リテ、此部ノ擊
動ヲ減少シ、且ツ大氣ノ外壓ニ由テ、囊韌帶ノ骨
間ニ挿入スルヲ防護ス、

解剖明蒙 卷之四 大反醫學校

甲
リガメント、ム、クリ
シアー、タ

大腿骨髌間凹窩ノ両側ヨリ、一對ノ強キ纖維帶
ヲ生ス之ヲ十字韌帶ガクリンツルリト稱ス、互ニ交
又シテ、小腿骨ノ棘状突起ノ前後ニ附着ス、此韌
帶ハ、脛ノ屈伸運動ヲ限制シ、殊ニ其屈スルキニ
於テ、關節ヲ扶助シ、以テ愈強固ナラシム囊韌帶
ハ、薄キ潤大ナル一囊ニシテ、大小腿骨ノ兩髌ノ
粗縁及ニ膝蓋骨ノ側傍ニ附着シ、且ツ關節近傍
ニ附着ハル諸筋ノ腱ト結合ス此韌帶ハ、其質極
テ薄ク、恰モ近傍ノ骨膜ノ展延セル者ノ如クニ
シテ、且ツ其處々ニ於テ、諸筋ノ腱ヲ附スル者ト、

角音訓家
卷之四
大正醫學

甲
リガメント、ム、クリ
シアー、タ

看做ス可キニ似タリ、關節ノ後方ニ於テ、斯ク膜
上ニ來附スル者ハ、半膜筋ノ腱ナリ、而メ此腱ハ、
大腿骨ノ外髌ト、小腿骨ノ内髌トノ中間ニ、普達
スル者ナリ、
膝蓋骨ノ上方ニ於テ、四頭伸筋ノ腱アリ、此腱、即
テ強韌帶ニ代リテ、作用ヲ為セリ、下方ニ於テ、強
厚ナル纖維帶アリ、膝蓋韌帶ガクリンツルリト稱
ス、膝蓋骨ノ尖端ノ前方ヨリ下行シテ、小腿骨ノ
結節ニ至ル、是レ前腱ノ展延スル者ナリ、此韌帶
ノ着點ノ直上ニ於テ、關節ト交通セサル、一個ノ

解剖學
卷之四
大正醫學

解剖學 卷之四 附錄

甲
リガメントム、ラテラ
ーレインタルム

乙
リカメントム、ラテラ
ーレエキステルム

關節囊、リ、以テ、小腿骨ト、韌帶ト、分界ス、
内側韌帶、ライン、テ、タル、ラテハ、長廣ナル、強帶ニシ
テ、大腿骨ノ、内髌結節ト、小腿骨内緣ノ、上部トノ
中間ニ、普達ス、
外側韌帶、エキス、タル、ラテハ、圓帶ニシテ、大腿
骨ノ、外髌結節ト、補腿骨頭ト、中間ニ、普達ス、此
二個ノ、韌帶ハ、殊ニ、脛ヲ、伸フル、ニ、於テ、關節ヲ
衛固ス、關節膜ハ、囊韌帶ヲ、裝裏シ、而シテ、半月狀、纖
維軟骨、及、十字韌帶ノ、上ニ、反展シ、爾後、膝蓋韌
帶ト、小腿骨頭ノ、間ニ、於ケル、脂肪塊ノ、上方ニ、到

甲
リガメントム、アラリヤ
リガメントム、アラリヤ
マダ、ス、イン、テルノム
エド、ミ、ニ、ユ、ス、エ、キ、ス
テルノム

全

リテ、二個ノ、半月狀ノ、皺襞ヲ、作り、關節ノ、兩側ニ
ニ、沿テ、展延ス、此、展延部ヲ、^甲翼襞、_{エ、ル、ラ、フ、ラ}ト、稱セ
リ、件ノ、皺襞、脂肪塊ノ、上方ニ、於テ、相合シ、即チ、圓
錐形ノ、一帯ト、成リテ、斜メニ、後方ニ、上行シ、以テ
大腿骨、髌間、凹窩ノ、前緣ニ、附着ス、
膝蓋骨ト、滑車面トノ、上ニ、於テ、被ノ、關節膜、一個
ノ、囊ト、為リ、乃チ、數、イン、チ、許、上行シテ、四頭伸筋
ノ、腱ト、大腿骨トノ、中間ニ、展延ス、蓋シ、脛ヲ、屈マ
ル、キハ、此、囊ヲ、拏下シテ、大腿骨ノ、滑車緣ニ、到ラ
シメ、伸フル、キハ、此、囊ヲ、拏上マルニ、四頭伸筋ノ

解剖學 卷之四 附錄

肉束ヲ以テス關節ノ後面ニ於テハ彼ノ關節膜
ハ大腿骨ノ兩髁ト腓腸筋起端ノ腱頭トノ中間
ニ上行セリ、

小腿輔腿關節アセ、テビヲ、エトボシラソル、

小腿輔腿ノ二骨ハ其上下共ニ不動關節ヲ成セ

リ乃チ上小腿輔腿關節シ、ペリヲ、テビヲ、エトボラ

ハ、小腿骨ノ外髁ト輔腿骨ノ頭ヨリ成リ其關節

面各軟骨ニテ被包シ其周圍囊韌帶ニテ抱擁ス、

而シテ此韌帶ノ強部ハ即チ前後ノ韌帶ア、エンテ、ボリ

ガメテリトヲ成スシ小腿骨ト輔腿骨ノ間隙ハ骨

甲
ペレチヲテビラハ
テキレシ

乙
メンブラナ、インテル
ラセア

全
セプタム、ロンジヒ、デナ
インテルラシラス

間膜インメンタラシス、占據ス、此膜ハ平行ナル織

維ニシテ、小腿骨ノ外縁ヨリ斜ニ下テ輔腿骨ノ

對向縁ニ達ス、而シテ其上部ニ穿孔アリテ、前小腿

骨血管ヲ通過ス、此膜、下行スルニ從テ、幅徑狭小

シ、兩骨ノ下端ノ間ニ於テハ、短ナル強纖維ト為

リ、以テ二骨ヲ固繫ス、下小腿輔腿關節ア、エンテ、ボリ

テモ、レラ、シ、ア、ハ、前後ニ韌帶ヲ以テ衛固ス、其前

韌帶ハ、小腿骨ノ前方ヨリ、外髁ニ向テ、斜ニ下行

シ、後韌帶ハ、二帶ヨリ成リ、共ニ進行シテ、骨ノ後

面ニ達ス、

踝關節 ジセ、アソクトル

踝關節ハ、兩踝間ノ横穹ト、距骨ノ体ヨリ成ル單
 一ノ絞鈕關節ニシテ、其作用ハ、唯ク屈伸スルノ
 其周圍ハ、薄キ囊靱帶ヲ以テ抱擁ス、且ツ内側、
 外側、共ニ靱帶アリテ、之ヲ衛固ス、而シテ其囊靱帶
 ハ、骨ノ联接縁ヲ維持ス、其外側靱帶 甲 ル、エキス、テ、ノム
リ、ガ、メ、ハ、外、踝、ヨ、リ、横、張、セ、ル、三、條、ノ、強、纖、維、ニ、シ
テ、一、ハ、後、方、ニ、進、ン、テ、距、骨、ノ、後、縁、ニ、到、リ、一、ハ、跟
骨、ノ、外、方、ニ、下、行、シ、一、ハ、前、方、ニ、進、テ、距、骨、ノ、前、縁
ニ、到、ル、内、側、靱、帶 乙 ル、イ、ン、テ、ル、ノ、ム
ラ、イ、ン、リ、ガ、メ、ル、ラ、ト、テ、ハ、強、帶、ニ、シ、テ、

甲
ル、エキス、テ、ノム

乙
ル、イ、ン、テ、ル、ノ、ム

全
リ、ガ、メ、ン、ト、ム、ラ、テ、ラ
ト、デ、ス

全
リ、ガ、メ、ン、ト、ム、ラ、テ、ラ
ヲ、ダ、ル、シ、ラ、ム

内踝ノ下縁ヨリ、距骨ノ同側、及ヒ跟骨横突起ノ
 間ニ擴布ス、

跗骨間及ヒ跗蹠骨關節 △セ、イ、ン、タ、ソ、タ、メ、イ、サ、ル、
エ、イ、ン、タ、ソ、タ、メ、イ、サ、ル、

距骨ト跟骨ハ、厚キ骨間靱帶 △ ス、イ、ン、リ、ガ、メ、ヲ、ン、シ、ト、ヲ、以
テ、維、持、ス、此、靱、帶、ハ、其、二、骨、ノ、溝、渠、ニ、テ、成、ル、所、ノ

竇中ニ占據シ、乃チ二骨ノ關節面ヲ分畏シ、其後
 方ノ一面ハ、一個ノ短小ナル、薄キ囊靱帶ニテ被
 包シ、且ツ一個ノ關節膜ニテ裝裏ス、他ノ一面ハ、

其下部、距骨頭ト、舶様骨トノ關節ニシテ、彼此普

甲
リカメントム、アス
タラガロ、スカラ、イデ
ラム

甲
リカメントム、カルカ
ニ、スカラ、イデラム、エ
ス、ラム、

全
リカメントム、カルカ
ニ、ナ、ヴィ、キ、ラ、イ、
ン、ル、セ、ラム、

乙
リカメントム、カルカ
ニ、スカラ、イデラム、イ
ン、セ、ラム、

全
リカメントム、カルカ
ニ、ナ、ヴィ、キ、ラ、イ、
ン、ル、セ、ラム、

通ノ、囊韌帶アリテ被包シ、且ツ普通ノ關節膜、連
 續シ来テ装裏ス、關節ノ、
 關節ノ、直部ニ於テハ、廣キ纖維帶アリ、距舶韌帶
 ア、イ、ド、タ、リ、ガ、メ、ロ、ス、カ、ト稱ス、以テ其部ヲ衛固ス、外
 側ニ於テハ、外跟舶韌帶エ、エ、キ、ス、カ、ラ、イ、ド、リ、ガ、メ、ン
 トアリ、距骨ト、骹子骨トノ間ニ在テ、跟舶二骨ヲ
 維持セリ、下方ニ於テハ、下跟舶韌帶カ、イ、ン、カ、ニ、ス、
 ガ、メ、ン、ト、リ、ア、リ、是レ廣キ強帶ニシテ、跟骨ノ横
 突起ヨリ起リ、距骨頭ノ下方ニ達シ、終ニ舶様骨
 ニ到ル、

丙
リカメントム、カルカ
ニ、キ、ボ、イ、デ、ラム、
ペ、ラ、ス、エ、ツ、ト、イ、
ン、セ、ラム、

跟駁關節 ケ、ゼ、ア、ラ、ム、エ、ン、ド、キ、ボ、イ、ド、ボ、 ノ、カ、ル
 跟駁關節ハ、短ナル一個ノ囊韌帶ニテ圍擁シ、其
 上下ハ、廣キ纖維帶アリテ衛固ス、之ヲ上下跟駁
韌帶ル、カ、ペ、ラ、キ、ボ、イ、ド、リ、ガ、メ、ン、ト、カ、ト稱ス、

舶駁楔間關節及ヒ舶駁楔躑骨基礎關節
 テ、エ、ン、ド、キ、ボ、イ、ド、リ、ガ、メ、ン、ト、カ、ト稱ス、
 右ノ諸骨中、第一躑骨ノ他ハ、總テ足背、及ヒ足躑
 ニ在テハ、相互ニ纖維帶ニテ聯合ス、此帶ハ、近傍
 ノ諸帶ヲ結合シテ、乃チ足背及ヒ足躑韌帶

甲
リカメントム、ドルサ
ラ、カ、メ、ン、ト、プ、ラ、ン、タ、リ

ノ諸帶ヲ結合シテ、乃チ足背及ヒ足躑韌帶
 カ、ド、ル、サ、ラ、カ、メ、ン、ト、プ、ラ、ン、タ、リ

ア

甲
リガメントラム、イン
テルラセア

エ、リ、ガ、メ、ラ、ン、ト、ダ、ヲ、成、シ、又、タ、相、共、ニ、結、合、シ、テ、一、個
 ノ、囊、韌、帶、ヲ、作、レ、リ、
 骨間韌帶 リガメントラム、インテルラセア、ハ、短キ纖維ニシテ、骨間
 ニ占據シ、以テ船槎骨ト、骹子骨、又タ骹子骨ト、外
 楔状骨ヲ結合シ、又タ他ノ二個ノ楔状骨ヲ互ヒ
 ニ維持シ、而シテ外側四個ノ、蹠骨ノ基礎部ヲ維持
 ス、
 船槎骨、楔状骨ノ關節膜ハ、骹骨ト、楔状骨トノ關
 節ニ展延シテ、又タ外側二個ノ楔状骨間、及ヒ第
 二、第三蹠骨間ニ展延ス、他ノ關節膜ハ、骹子骨ト、

甲
リガメントラム、コング
ム、ラ、ン、テ、
 全
リガメントラム、カルカ
ラ、キ、ユ、ー、ボ、イ、テ、ム、ア
ラ、ン、タ、ー、レ、

外側二個ノ、蹠骨トノ關節ヲ装裏ス、
 第一蹠骨ト、内楔状骨ハ、一個ノ關節ヲ成シ、囊韌
 帶ニテ圍擁シ、且ツ裏面ハ、又タ別ニ關節膜ニテ
 装貼ス、

長蹠韌帶 リガメントラム、コングム、ラ、ン、テ、ハ、足韌帶中、最モ著大
 ニシテ、跟骨ノ下面ヨリ起リ、前方ニ進ンテ、漸次
 ニ擴張シ、以テ骹子骨、及ヒ外側蹠骨ノ基礎ニ附
 着ス、

此韌帶ヲ以テ、骹子骨溝ヲ、全孔ト成シ、以テ長輔
 腿筋ノ腱ヲ通ス、

角音訓蒙
卷之四
五
加陽醫學

躡趾骨及上趾骨間關節ゲメタル、エ、ヤ、ソ、レ、ン、ガ

躡趾骨及上趾骨間關節ハ、其造構手ノ同處關節

二異ナル、下ナシ、由テ辨説セス、

外後條帶

第一條帶

第二條帶

第三條帶

第四條帶

第五條帶

解剖訓蒙卷之四終

醫學學校官版御用所

書

林

大坂心齋橋通唐物町

河内屋吉兵衛

同心齋橋南壹丁目

敦賀屋九兵衛

